

第24回 日本動物児童文学賞審査委員会の会議概要

I 日 時 平成24年7月30日(月) 13:30～15:30

II 場 所 日本獣医師会会議室

III 出席者

【委員】

動物愛護・福祉部会長

木村 芳之 日本獣医師会理事(動物福祉・愛護部会長)

動物福祉・愛護関係省庁及び教育関係省庁関係者

西山 理行 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室長

田中 孝一 文部科学省初等中等教育局主任視学官

動物福祉・愛護関係学識経験者

会田 保彦 日本動物愛護協会常任理事

齋藤 勝 日本動物福祉協会副理事長

椎野 雅博 日本愛玩動物協会副会長

須田 沖夫 東京都家庭動物愛護協会会長

【日本獣医師会】 矢ヶ崎 忠夫(専務理事)

IV 議 事

- 1 委員長の選任(協議)
- 2 第2次審査に至るまでの審査経過等(説明)
- 3 審査(協議)

V 会議概要

開会に当たり、矢ヶ崎専務理事から、「昨年震災、津波、火災、原発と四重苦の災害で多くの動物の命が失われ、未だ避難生活を余儀なくされている方々も大勢いる中で、人と動物の絆の大切さが一段と感じられた。今回の第24回の応募作品の中には、震災を題材とした作品も見受けられた。より良い作品を選出いただきたい」旨挨拶が行われた。

その後、事務局から委員紹介、日本獣医師会日本動物児童文学賞事業実施要領等の説明が行われた。

1 委員長を選任

委員の互選により、木村芳之委員が委員長に選任された。

2 第2次審査に至るまでの審査経過等（説明）

事務局から、平成24年1月1日から4月20日まで募集したところ、99作品の応募があり、第1次審査を現代日本少年文学の会主宰の池川禎昭氏に依頼し、第2次審査候補作品として15作品が選出された旨説明された。

3 審査（協議）

各審査委員による審査候補作品の事前審査結果をもとに、協議の結果、別紙のとおり大賞1作品、優秀賞2作品、奨励賞5作品が選定された。

4 まとめ

- (1) 別紙入賞者のうち、大賞、優秀賞受賞者の表彰は、平成24年9月29日（土）東京国立博物館平成館講堂にて開催される平成24年度動物愛護週間中央行事屋内行事の会場において行う。
- (2) 大賞及び優秀賞の3作品は、「第24回日本動物児童文学賞入賞作品集」として製本のうえ、都道府県等の関係機関、小学校等の教育機関及び図書館等に配布される。

【別紙】

第24回日本動物児童文学賞入賞作品

【日本動物児童文学大賞】

「里山のシカ」

沖 義裕（茨城県）

＜受賞理由＞

シカによる林業被害対策と野生生物保護の両立の難しさと希望が表現されたスケールの大きな作品。祖父から父、父から子供へと三世代に渡り、動物を愛する心が伝えられているのも良い。

【日本動物児童文学優秀賞】

「エリー、いっしょに歩き出そう」

高森 美由紀（青森県）

＜受賞理由＞

東日本大震災を題材とし、飼い主と離れ離れになってしまった犬に、病弱な少年が励まされ、心身共に立ち直っていく作品。随所にきめ細かい描写があふれ、犬と少年の交流、父と母それぞれの愛情表現もうまく表現されている。

「ミーコの午後」

叶 昌彦（千葉県）

＜受賞理由＞

ねこを中心として、認知症の老人とその家族や近所の人達との会話の中に、思いやり、優しさが感じられる作品。日常生活の描写もユニークでさわやかな読後感をおぼえる。

【日本動物児童文学奨励賞】

「ロッキーとクリーム」

芦沢 美樹（静岡県）

＜受賞理由＞

両親を交通事故で失い、叔母の家に引き取られた少年が、動物園のホッキョクグマの観察を通して立ち直り、同じストレスを抱えた少女と心を通わせていく様子が、ホッキョクグマのロッキーとの対比でうまく描かれている作品。動物園の効果(意義)と問題点を指摘しながら、少年の心の回復と成長も描かれ、現代の児童教育現場がよく表現されている。

「ソラマメの木」

阿部羅 かおる（大阪府）

＜受賞理由＞

少年探偵団のような冒険小説的な子供が読んで楽しい雰囲気もある一方、パピーミル、動物愛護センターも登場し、動物飼育前に十分に考えて犬を選び、責任をもって最後まで適正に飼うことの大切さ、物言えぬ動物達の悲しさ、いとおしさが感じられる作品。

「猫おばさんのコーヒーショップ」

栗栖 ひろみ（埼玉県）

<受賞理由>

輪禍の野良猫に慈しみを施した、猫が大好きなおばさんが、恩返しを受け大成功する、現代版「鶴の恩返し」のような作品。おとぎ話、童話として面白い。

「どこへいくの？～あるミニチュアダックスの兄弟の物語～」水沢 稚津夫（東京都）

<受賞理由>

ブームの同胎犬を主人公に、飼い主によって犬・猫の幸・不幸かの一生が決まるという当り前の事を今さらながら思い知らされる作品。

少し悲しい、寂しい内容だが、飼う以上は責任を持って飼って欲しいという主旨がよく描かれている。

「約束、勇太のさくら」

高杜 利樹（宮城県）

<受賞理由>

東日本大震災の際の、地震・津波の恐怖の状況や家族の安否等が、リアルに描かれ、犬が家族の一員であることが良く伝わってくる作品。

大震災の現状を子供目からみて、家族の絆、飼い犬との再会で再生の夢等、希望の持てる内容も良い。